

“放射線・核エネルギー”で何をどう教えるか

主催 科学教育研究協議会

日時 2014年2月9日(日)

会場 ハイライフプラザ板橋

JR板橋駅徒歩3分

参加費 一般 3000円
学生 500円
科教協会員 1500円
(65歳以上の会員1000円)

受付開始 9時半

9:50 開会

10:00~ 10:40 『放射線副読本批判検討パンフレット』づくりの取り組み
浦辺悦夫さん(東京民研理科部)

10:40~ 11:20 社会科 核エネルギーの授業 根岸富男さん

11:20~ 12:00 家庭科 食の安全と放射線の授業 鈴木恵子さん

12:00~ 12:30 質問・意見交流

13:30~ 15:00 講演 活断層と原子力発電所 藤本光一郎さん

15:00~ 15:40 質問など

15:40 終わりの言葉 佐久間委員長

16:00 16時まで、完全に会場を出る!

※午前中の順番は、変更になる場合があります。

※ハードですが、午前午後とも休み時間なしで進行します。

▲実験などの展示あります

(発表する時間は全くありませんが、会場のスペースが許す範囲で、実験などの展示を募集します。希望される方は、佐久間までお問い合わせください。)



テーマ1 「活断層と原子力発電所」

活断層という概念自体が、科学の世界でも曖昧な概念であることを鷹取健さんが、東京大会運営委員会の学習会で述べておられました。日本は火山と地震の国です。言葉の定義の曖昧さから、地震や火山の危険性が忘れられてしまっ
てはいけません。 私たちも、原発設置の問題点を、最新の地震学、地質学と、
防災工学等の観点から学び直しておく必要があるのではないのでしょうか。

テーマ2 「どのような実践を生みだすか」

原子力発電所の事故による被曝がさけられない現実の中、原子力発電の是非
や、放射性物質を含む可能性のある食品を食べるかどうか、などの選択的場面
を生徒とともに考える実践が増えているようです。

賛成と反対の意見があるとき、自分はどうか判断するのか。双方の根拠を生徒
自身が調べ、必要なら教師が情報を提示しながら、判断に必要な知識を得る。

「正しい価値判断に至る方法」を学ぶことも視野に入れた実践です。ここで言
う「正しい」ということは、どういうことなのか、そのこと自体を問うこと
が、生徒にも教師・大人にも不可欠なことなのではないのでしょうか

テーマ3 文部科学省の副読本「放射線のはなし」をどう使うか

文部科学省が「放射線副読本」を再び配布するそうです。生徒に配布をする
のではなく、学校に保管し、何年も使うようです。副読本を使った実践を行う
ことが、これから求められるでしょう。

東京民主教育研究所が、副読本を検討し、副読本の問題点や、掲載されてい
ないが必要なことなどを、一冊の冊子にまとめました。副読本を使って授業せ
ざるを得ない状況になった時に、参考にしてほしい冊子です。

2月9日（日曜日）多くの方の参加をお待ちしております。